

【亀岡市】 校務D X計画

1. 趣旨

亀岡市教育委員会においては、国のG I G Aスクール構想に基づき、令和3年度から全ての小・中・義務教育学校で1人1台端末（タブレット端末）と高速大容量の通信ネットワークの構築、クラウドサービスの積極的な活用など、新たな時代の変化に対応するI C T環境を整備し、子どもたちの発達段階に応じた情報活用能力の育成や探究的な学習活動の充実などを進めてきました。

教職員においても、I C Tの活用が進む中、保護者と学校との連携ツール導入やそれに伴うペーパーレス化などの業務改善を進めることで、子ども一人ひとりに伴走しながら、きめ細やかな指導や支援に努めてきたところです。

ただし、日々の教育活動の内容は常に変化しており、多様化・複雑化する業務の対応により、依然として長時間勤務を行う教職員は多く、更なる改善が必要であることから、教職員の働き方改革の一環として、校務D Xに係る取組を進めることとします。

2. 本市における課題等について

「G I G Aスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「G I G Aスクール構想の下での校務D X化チェックリスト」に基づく自己点検結果（文部科学省 令和5年11月実施）による本市の状況を踏まえ、特に本市の課題と考える次の事項について、各学校と連携を図りながら校務D Xの推進を図っていく必要があります。

（1）G I G A環境・汎用クラウドツールの一層の活用

全ての教職員には、G I G A端末でのマイクロソフトアカウントが付与されており、情報共有や連絡等にクラウドサービスが活用できる環境にあります。

校務D X化チェックリストの結果に基づく本市の状況について、「教職員が作成した教材等をクラウド上で共有」や「職員会議等の資料をクラウド上で共有」など校内におけるクラウド活用は、多くの学校で行われていますが、「保護者からの問い合わせや連絡に係るクラウド活用」や「保護者との日程調整におけるクラウド活用」、さらには「クラウドサービスを活用したテストに係るC B T（※1）導入」など保護者や児童生徒を対象とした活用は、あまり進んでいない状況です。ただし、保護者との連絡手段については、保護者用連絡ツールを導入しており、保護者からの欠席連絡及び学校からのお知らせ等をデジタルデータで配信し、利便性の向上に努めています。

（2）今後の校務支援システムの在り方検討

各小・中・義務教育学校においては、京都府市町村教育情報化推進協議会のもと、京都府下において京都府統合型校務支援システムの共同調達を行っています。現

システムにおいては、ネットワーク分離によるSaaS(ASP)型(※2)で運用しており、学習系データと校務系データとの連携ができない現状を踏まえ、今後、各自治体の事例等を参考にしながら、校務系・学習系ネットワークを統合したクラウド環境での校務の実施など、教職員が働きやすい環境や学びやすい環境の整備に向けて検討していく必要があります。

(3) 教育情報セキュリティポリシーの必要性

校務DX化チェックリストの結果に基づく本市の状況について、「自治体のセキュリティポリシーとは別に、教育情報セキュリティポリシーを教育委員会独自に策定しているか」の項目においては、平成21年に亀岡市立小中学校情報セキュリティに関する指針を策定して以来、教育現場の現状に沿った教育情報セキュリティポリシーの見直しを検討している状況にあります。

今後、国の方向性や現状を的確に把握しながら、クラウド上のデータやサービスを活用することを前提とした教育情報セキュリティポリシーの策定が必要ですが、現在においても、学校において児童生徒に関する様々な情報を活用していることを踏まえ、児童生徒の存在及び取り扱う情報の多様性・多目的性等を考慮した情報セキュリティ対策を講じていくことが重要であり、まずは教育現場の現状に見合った教育情報セキュリティポリシーが必要です。

3. 校務DXに向けた取組

上記課題等を踏まえ、校務DXに向けて次のとおり取組を進めます。

(1) 教育情報セキュリティポリシーの策定

クラウド活用を前提として、それに相応しいセキュリティレベルを確保する中で、データ利活用や個別最適な学びなど、新たな時代に相応しい教育DXの基盤を構築するため、教育現場の現状を踏まえて、情報資産を守るための「教育情報セキュリティポリシー」を策定します。

(2) 業務を支援するツールを活用した効率化の推進

1日でも早く教職員の業務の負担軽減を図るため、まずは既存の業務支援システムの利活用について研究・実践するとともに、コミュニケーションツールを活用した児童生徒とのリアルタイムの連絡や学習状況の把握及び評価の充実、教職員間の情報共有等による校務の効率化をより一層推進します。

(3) 校務系・学習系ネットワークの統合等

校務系ネットワークの学習系ネットワークへの統合を想定していることを踏まえ、データ連携やセキュリティ対策などについての調査研究を進めるとともに、既存のサーバ、校務端末等の更新時期やネットワーク統合後の組織体制も視野に入れ、取組を進めます。

【注 釈】

※1 「CBT」とは、「Computer Based Testing (コンピューター ベースド テスティング)」の略称で、コンピューターを使用した試験方式のこと。コンピューターのディスプレイに問題が表示され、マウスやキーボード等を使って選択肢を選んだり、答えを入力し解答を行う。

※2 SaaS (ASP) 型の「SaaS (サース又はサーズ)」とは、「Software as a Service (ソフトウェア アズ ア サービス)」の略称で、ソフトウェアを利用者側に導入するのではなく、提供者側で稼働しているソフトウェアを、インターネット等のネットワーク経由で利用者がサービスとして利用すること。

例) Microsoft 365 など

「ASP」とは、「Application Service Provider (アプリケーション サービス プロバイダ)」の略称で、ソフトウェアを実行するためのプログラムデータをインターネット上のクラウドに置き、インターネット回線を通じてプログラムデータにアクセスし、ソフトウェアを利用できる仕組みのこと。

例) 校務支援システム など